

開催地名：神奈川県逗子市	
開催日時	令和2年2月22日(土) 10:00～11:30
開催場所	逗子市役所
語り部	吉田 亮一 (宮城県仙台市)
参加者	逗子市民 約80名
開催経緯	<p>東日本大震災発生直後は、各種訓練への参加率を見ても、当市では津波対策への高い関心を示していたが、災害発生の経年と共に、市民全体の意識の低下は否めない状況である。また、本市の高齢化率は著しく、市民に最も近い共助組織である自主防災組織の存続も危ぶまれており、行政として推進している自助・共助への影響も深く、若手防災リーダーの育成が急務となっている。</p> <p>昨年、本災害伝承プロジェクトで講演を開催する機会を得たが、開催告知直後から問合せがあるなどの近年にない高い関心を得られことから、本年度の実施を要望するところである。</p>
内容	<p>(1) はじめに</p> <p>私は仙台市で保育園を経営する傍ら、平成18年(2006年)より、地元仙台市太白区茂庭台5丁目町内会の防災統轄を務めている。また、現在、YY防災ネットより依頼を受けて、年間30回程度、全国で防災講座を実施している。東日本大震災時は、仙台市太白区茂庭台5丁目地域の指定避難場所の責任者を、17日間努めた。そこで、今回は地震が起こる前に備えておくことと、避難所運営を中心にお話したい。</p> <p>(2) 自助の大切さ</p> <p>将来起こるであろうと言われている大地震に備えて、事前に住民一人一人が、災害に対しての知識を蓄え、発災後は共助へとつながるように意識していただきたいと思う。具体的には、住宅の耐震整備(外壁を含む)、室内の点検(家具の固定)、備蓄品(食料、水など1週間分)の確保、車の燃料をこまめに満タンにすること、家族間での災害発生時の安否確認や連絡方法、非常用持出品についての確認等が挙げられる。災害に対して危機感を持って想定以上の備えをしていただきたい。「心配ない」、「ありえない」、「大丈夫だ」「まさか、来るとは」等という考えも捨てていただきたい。防災は危機感と想定以上の備えが基本である。全ての責任者は、最大の危機感と想定以上の備えで、命を守ることを是非お願いしたいと思う。</p> <p>(3) 事前の備えと避難所運営</p> <p>東日本大震災発生から遡ること約5年の平成18年に、当時保育園の理事だった私は、月に1度義務付けられていた保育園での防災訓練をベースにして、地域</p>

	<p>で自主防災組織を立ち上げ、防災活動をスタートした。地域の防災マニュアルを自分たちで作成し、各役割の分担も年度ごとに持ち回りで行った。こうすることによって、各住民が全ての役割を担うことができた。そして、毎年、全ての方を対象とした総合防災訓練を、昼間と夜間にそれぞれ大地震が起こったと想定して、2つの時間帯で行った。さらには、平日の日中に働いている大人の協力を得られないことを想定して、小・中・高生を中心とした訓練も実施するとともに、地域内の介助者として、かつて医師、介護士、学校の先生などの職についていた方々を募り、災害時の協力体制も整備した。</p> <p>防災備品についても、毎年少しずつ購入を進めた。無線や発電機、灯光器といった高価なものから、災害時に極めて重宝する「在宅介護用トイレ」も揃えた。このような活動のおかげで、東日本大震災の際には訓練どおりの手順で避難することができ、避難所でも備品を活用することができた。</p> <p>地域防災の「地域」とは、地域内すべてを指す。家庭保育園、保育園、幼稚園、学校、消防、警察、商店会、商工会議所、医療機関、高齢者施設、企業等すべてが地域防災に関係する。行政の様々な組織と連携するとともに、地域の学校との連携も必要である。特に学校は、災害時に指定避難所として開放されるケースが一般的であるので、学校での防災訓練の実施と、地域住民の参加が求められる。</p> <p>以上のように、平成18年からの5年間で行っていたことを実践しただけで、各避難所の運営はスムーズにできたと思っている。その中でも、避難所開設時から閉所するまで、小学生から大学生までの子ども達が、それぞれできることを役割分担し、清掃、炊き出し、生活用水の確保、救援物資の管理、掲示板の運営等々、貴重な戦力として活躍してもらったことは、是非紹介しておきたい。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
開催地より	<p>震災前から、地域での防災活動が住民主体でしっかり行われていたことが、お話を伺えた。また、具体的な活動内容についても、わかりやすくお話いただいた。参加者にとって非常に役立つ情報だったと思う。</p>